

人物紹介コーナー・散歩道『清水 平 内科長』

にいえば”身近にあって、何でも相談にのってくれる総合的な診療”のこと。診療科目を問わず、日常的に起こる健康問題の大半について解決することが可能です。もちろん、生命に関わる治療や高度で専門的な治療が必要な場合は、該当する医療機関と連携しな

がら問題解決に努めます”。

清水医師自身、日高管内で幼少期を過ごし、いわゆるへき地における医療の現状を目の当たりにした。現在のよう

な地域医療を支える制度もないうした身近な経験もプライマリ・ケアを目指す原動力になつたという。

”在宅は究極の総合診療”の場。急性期医療の現場で診療活動を行いつつ、「今後徐々にプライマリ・ケアの専門性を地域で役立てていきたい」。



函館中央病院(函館市)
内科科長 清水 平さん

将来はプライマリ・ケアの専門性も發揮したい

今年4月、内科科長に就任。内科一般に幅広く対応している。感染症や糖尿病の診療などを高く、糖尿病では看護師

や薬剤師、管理栄養士らとチームを組み、血糖コントロールの維持に努める。日本プライマリ・ケア連合学会認定医、指導医の資格を持ち、今後は専門性を活かした診療も展開していく意向。

「プライマリ・ケアとは簡単